



心と体を養う少林寺拳法
連続優勝を目指して技を磨く

人の風雲

Smiling faces of
miyakonojo

3月に香川県で開催された全国高等学校少林寺拳法選抜大会で、村杜光翼さん、馬籠零士さん、藤本麗暖さん、平原千裕さん、瀬戸口紫郎さん、廣底龍聖さん（いずれも3年）のチームが、男子団体演武の部で見事初優勝の栄冠を手に入れました。

主将の村杜さんは「昨年8月に愛知県で行われたインターハイで3位となり、その後、今のチームになった。先輩たちの思いを受け継ぎ、悔しさをばねに優勝を目指してがんばってきたのでうれしい」と喜びをかみしめます。

少林寺拳法は、戦後間もなく日本で護身用の技として考案されて広く普及。高校生の大会では団体



(写真左下) 向かって左下から馬籠零士さん、村社光翼さん、平原千裕さん、向かって左上から、瀬戸口紫郎さん、廣底龍聖さん、藤本麗暖さん、中山拳翔さん、久保田健治さん(2年)

演武のほか、単独演武や組演武の部門があります。

同大会団体演武は、6人1チームが突きや蹴りなどの切れや技の正確さ、統一感のある動きであるかなどを競う競技です。

鳴海秀幸監督率いる同部は創部20年を迎え、現在は男子のみの計8人で活動しています。

「監督やコーチの勝たせたいという熱い思いを受け止め、部員全員で励まし合いながら厳しい練習を乗り越えてきた」と振り返る村社主将。

鳴海監督は、「技術だけではなく、礼儀やあいさつも厳しく指導することを心掛けてきた。部員らは、この1年で心も体も大きく成長できた。団体演武は、6人全員が動きをそろえ、最後まで体力を維持することを求められる種目。これからも練習を重ねて、さらに技を磨き、次の大会でも優勝を目指したい」と力を込めます。

今年8月に本県で開催される、全国高校総体南部九州総体を最後に7人が引退する同部。村社主将は「現在のメンバーでは最後の大会。連続優勝を目指してがんばりたい。そして、都城工業高校少林寺拳法部の名を全国に轟かせたい」と拳を握っていました。